

滴一滴

東日本大震災からの復興と再生へと歩む今年。きのうの第70回山陽新聞賞贈呈式でも、この国と地

域への思いが語られた▼「忘れてはならないものが消えよ」としている。日本人として、日本の文化を次の世代に語り継がねば」と民俗学者の神崎宣武さん。備前焼作家小西陶蔵さんは、次世代にもこの信条を伝えたい。「伝統は古に今を重ねていく創造である」▼日本美術の「琳派」に回帰して再出発した洋画家難波滋さんも「これからも日本人である自分を忘れずにいたい」。古里の自然と愛情の豊かさが仕事の支えだというデザイナー水戸岡鋭治さん。「子ども

のころ夢見たとんでもないものを創ってみたい」▼「弱者が危急存亡の時にあれば手を差し伸べるのが岡山県民の感受性だ」とAMD A理事長の菅波茂さん。「この岡山の資源を国際貢献活動に生かしていく」▼約30年前、米国で血管内治療を学んだ自動車事故対策機構岡山療護センター長の衣笠和孜さんは、当時の熱い気持ちを思い出す。「この技術を早く日本に持ち帰らねば」。難治性疾患に挑み続ける岡山大学大学院教授の西堀正洋さんはこう思う。「知恵は絞り切った最後の一滴となつて出てくるのではないか」▼「人の心と徳を磨くことこそ重要だ」。メイト会長赤岩達重さんの信念である。